

2003年度から毎年市内全戸に配布。差別解消に向けて全力疾走!

おおいた人権啓発広報誌

# Let's **キズナ** とと とと にがあっても

完全  
保存版

2020年3月1日号  
大分市

差別が存在している  
「事実」と  
向き合っていますか?



## 【特集】 差別事件の昔と今

【ピックアップ】  
私たちの周りでも...  
ある通夜の間での僧侶による  
差別発言事件

大丈夫?その書き込み  
インターネットモニタリング中!



おおいた人権啓発広報誌

Let's **キズナ** とと とと にがあっても

完全  
保存版



おおいた人権フェスティバル  
パークプレイス会場



人権啓発街頭活動



大分トリニータ  
ホームタウンDAYでの啓発活動



差別をなくす市民啓発講演会



ラッピングバス



人権啓発パレード

## 広がる人権City大分市

~これまでも これからも~



大分市は部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消を推進します



おおいた人権フェスティバル  
人権講演会



夏祭りでの啓発活動



高齢者疑似体験  
(ヒューレおおいた)



地区懇談会



にんげんセミナー  
(ヒューレおおいた)



大型ポスター  
(本庁舎、各支所等)

発行/2020年3月1日  
お問い合わせ・ご意見・ご感想/大分市福祉保健部人権・同和対策課  
電話 097153715618

特集

# 差別事件の昔と今

近年、あからさまな差別は表面上少なくなりましたが、**「私の周りでは差別はない。だから、もう差別はなくなった」という声もあります。**

しかし、差別事件は今でも**場所や形を変えて起きているのです。**

## 過去に起きた主な差別事件

### 部落地名総鑑事件

1976年の戸籍法一部改正により、身元調査が困難になると予想した業者が全国各地の被差別部落の所在地や世帯数などを記載した書籍を密かに販売し、220社もの企業がこの書籍を購入していたことが発覚した事件。採用や結婚の際に、被差別部落出身者を排除するために身元調査が行われていた実態が明らかになった。

### 連続大量差別はがき事件

被差別部落の関係者やハンセン病患者に対する差別はがきの送付などの嫌がらせ行為が、2003年から2004年の間、数百回にわたり繰り返された事件。犯人は、部落差別について教育を受けておらず、たまたま読んだ本の内容を鵜呑みにし、一方的に偏見や差別意識を募らせ、事件に及んだ。



### 大分市内エレベーター差別落書き事件

2003年、大分市内のマンションエレベーター内で、名字の後に「部落」と書かれた落書きが発見された。落書きは、エレベーター内の押しボタンの上部にマジックを使って書かれており、明らかに差別的な意図によるものであった。



### 近年、身近に起きてきている差別事件

#### 「全国部落調査」復刻版出版差し止め事件

2016年3月、川崎市のある出版社が、被差別部落の所在地や世帯数を記した戦前の「全国部落調査」を書籍として復刻・出版しようとした。これに対し横浜地裁は、「差別を助長する」とした原告の訴えを認め、出版や販売を禁止する仮処分決定を出した。

知っていますか？  
全て事実です。

### 相模原障害者施設殺傷事件

2016年7月、相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者ら45人が殺傷された事件。ネット上では犯人の言動に同調する意見もあり、障がい者に対する根深い差別意識が浮き彫りとなった。

### インターネット上での芸能人中傷被害事件

ある芸能人が、インターネット上で長期間に渡り、殺人事件の犯人という風評被害を受け、2009年1月までに中傷書き込みをした19人が摘発された事件。摘発された人は17歳から47歳と幅広く、大手企業勤めや大学職員もいた。インターネット上での誹謗中傷をめぐり一斉摘発は全国で初めてだった。

**なぜ、差別の加害者になつてしまったのかわからないか。**

「私は差別しない。だから人権問題は自分には関係ない」という意見がありますが、はたして、それでよいのでしょうか。  
私たちの周りには膨大な情報があふれています。しかし、

## 差別をなくすのは誰？

「もう差別はなくなつた」という意見があります。たしかに、あからさまな差別事件は表面上少なくなりました。しかし、インターネット上の悪質な差別書き込みなど、差別事象は場所や形を変えて、今この瞬間も起こっているのです。さらに、明確な悪意を持って差別する確信犯の存在も大きな問題となっています。  
大分市では、部落差別をはじめとするあらゆる差別を無くすため、街のいたるところで人権に関する様々な取組を行っています。私たち一人ひとりが「差別をしない、

**「自分さえよければ…」本心にそってつづければいい。**

日本では表現の自由が保障されていますが、誰かを差別し、傷つけることは決して許されません。

このままでは、人々の心の溝は広がり、やがて分断された世の中になってしまうかもしれません。社会は、多くの人が集まり支えあうことで成り立っています。より良い社会を築くためには、自分と異なる存在を差別したり排除したりするのではなく、他者を認め、尊重することが大切です。

人と人との繋がりが大きく変化している時代だからこそ、今を生きる私たち一人ひとりが**相手の気持ちに寄り添い、認め合い、支え合う**ことが求められています。

**させない、許さない**という、強い気持ちを持って行動しなければ、差別はなくなりません。**差別をなくすのは、他の誰かではなく、あなたです。**

私たちに大切なことは、差別が存在している「事実」に向き合い、思い込みや偏見にとらわれていないか自分自身を見つめなおすことです。その上で、誤った情報や噂に流されないためにも、講演会や研修会など各種イベントに参加し、「人権」を正しく学ぶ機会を増やすことが一人ひとりに求められています。

近年、インターネット上では、ネットいじめや他人への誹謗中傷、さらには部落差別に関する悪質な書き込みなどが問題となっています。そのような書き込みを見て誤った認識や偏見を持ってしまうと、心の中に差別意識が芽生えてしまい、新たな差別につながります。それは、相手の人格を否定するばかりでなく、生命をも脅かす事態に発展します。

このようなことから、インターネット上の誤った情報によるマイナスイメージの拡散を防ぐため、悪質な書き込み等を閲覧し、差別情報の早期発見や削除要請を行う「モニタリング事業」が、大分市をはじめ多くの自治体で実施されています。

モニタリングは、誰もがインターネットを安心して使うために必要な活動なのです。



## インターネットモニタリング中

**見逃さない！**

**差別書き込み！**

## ピックアップ

私たちの周りでも…

## 僧侶による差別発言事件

2017年4月、大分市内の葬儀会館で執り行われた通夜の中で、真宗大谷派の僧侶による差別発言があった。

僧侶は法話の中で、以前、故人と系図調べを行っていた際に、知人から「過去帳を使用した系図調べは部落差別問題の観点から見て問題があるのではないか」と指摘されたことを話し、「同和はうるさい。同和はむずかしい」などの偏見や差別意識に満ちた発言をした。

本事件は、部落差別問題に真摯に取り組んでいた現役の中学校校長が喪主を務めていたことに加え、同僚の教職員や市職員など、部落差別解消を願う人たちの目の前で起こった、許しがたい事件である。

本事件後、真宗大谷派では、このような事件を二度と起こさないために、被害者の救済を含めた学習会の開催や、組織全体の意識の共有を図るための研修を増やし、行政・関係団体と連携して組織での取り組みを強化している。